

令和 5 年自己評価結果公表シート

作成 幼稚園型認定こども園囀幼稚園

1、本園の教育目標

子どもが生まれて初めて出会う学校として幼稚園型認定こども園を位置づけている。内容としてポイントに置くのは入園から卒園までの子どもの発達を見通したカリキュラムを編成し、各年齢にふさわしい直接的な体験が得られる環境を整えることである。言葉の原初的な活動である「よく聴く」こと、自分の五感をフルに使って「よくする」こと、思考力の芽生えとしての「よく考える」ことは、この時期の子どもたちに欠かせない経験であり、それらを助長できる環境構成を重視している。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

当園は「子どもが周囲の環境に興味を持ちながら自身の主体性を発揮し、様々な遊びにチャレンジしながら成長できる保育を目指している。そのメソッドとしてプロジェクトアプローチの手法を取り入れ、ここ 7 年間実践してみた。結果、子どもの主体的な側面は予想以上に伸びたが、しかし同時に以下のような課題も生まれた。①、3 歳児、4 歳児、5 歳児のつながりをどのように形成し、あそびを深めていくか。②、各クラス間の活動の違いを保護者にどのように伝えていくかの 2 点である。特に、②については、保護者への説明を十分行くと同時に、実践したことを可視化し、理解しやすい体制を作ることが重要である。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
支援教育の推進と関係機関との連携	今年度も支援を必要とする子どもが多数在籍している。内訳は要支援児とならないまでも、配慮を必要とする子どもである。よって、、子どもたちへのかかわり方もより個別化し、丁寧な対応が求められる。そのためには以前にもまして市の関係機関と連携を図りつつ子どもたちを見守っていく姿勢が必要である。
保護者との建設的なコミュニケーション その 1 ドキュメンテーションの作成	子どもの多様化が多くみられる中、今や保護者の多様化も顕著である。従って担任は子どもと同じく一人一人の保護者に寄り添いながら、写真や動画を通じて、保育への理解を深めていくことが必要である。
保護者との建設的なコミュニケーション その 2 ポートフォリオの作成	子どもたちの活動記録(実際に子どもたちが作った作品やその様子を写真として撮ったもの等)を保護者と共有することで保育そのものを理解してもらう。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育の質の向上については、一人一人の教員自身の質の向上が1義的なものであり、それに環境の質や同僚性の質が絡んでくる。特に、同僚性に関しては、幼児教育はチーム保育の側面が強いことから、良質の同僚性を築くことが保育の質を決定づけるといっても過言ではない。従って、今後も園全体で保育観を共有し、長期的な見通しを持って取り組んでいくことが保育の質の向上につながると考える。特に、特別支援教育を進めていく上でこのことは欠かせないことから、今まで以上に取り組むべき課題である。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
当園の保育をどのような形で保護者に可視化し、理解と協力を求めていくか	子どもの主体性を育てていく保育に切り替えてから 7 年が経過するが、目に見えるものでないだけに保護者の理解も遅々として進まない。ドキュメンテーションを多用し、視覚的に訴えていきたい。
スタートカリキュラムとして小学校との連携を図る	幼稚園で大切にしている非認知的能力が小学校における認知的な学習とどう繋がっていくのかを、保育者と小学校教師が縦断的に子どもの育ちを見ていく中で、共通理解を図っていくことが重要であると思われる。そのような機会が設定されるように各関係機関に働きかけたい
保育士、幼稚園教諭の確保	保育士、幼稚園教諭の確保が困難な状況にある。待遇の改善はもちろんであるが、この仕事の良さややりがいを教育実習やインターンシップを通じて実感してもらえる工夫をどのようにするかを考えていきたい。

6、学校関係者の評価

学校関係者として、今年度も保護者会(桜の会)の協力を得て、4役(会長、副会長、会計、特別会計)のご協力を得る。その結果は、おおむね好意的な意見が多かったものの安全面での指摘(防犯や感染症対策)子どもへの個別的な配慮に対する意見等も見られた。ただ、当園の保育の基軸となる子どもたちの主体性を大切にする保育に関しては一定の評価を得られていることが分かった。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。